

複合サービス事業 < 1 >

支援先企業の概要			
・業種	複合サービス事業		
・創業後年数（10年未満であれば○）	38	・企業規模（中小企業者に該当する場合には○）	○
経営支援前の企業の状況			
観光タクシー事業を展開する傍ら、別会社で観光事業の展望台エスカレーターやみやげ物店・飲食店・ビジネスホテルの経営と多角的な経営を行ってきたが、設備投資は借入金への依存度が高く返済財源に窮する状態に陥っていた。また、景気後退から売上減少が続き自力での再建は困難との判断に至った。			
経営支援概要			
< 当行の施策 > 経営改善策は年商に見合う借入金までの削減が不可欠で、中小企業再生支援協議会の指導の下、地域再生ファンドの利用により債務の圧縮と経営態勢の強化を骨子とした計画を策定し実行した。経営態勢は不採算店の閉鎖によるコア事業への集中や、代表者以下社員の業務分担と責任の明確化による組織の活性について地域再生ファンドがコンサルタントを貼り付けてファンド滞在予定の3年間で実施し、健全化を達成後に旧債権金融機関が相応の債権額をリファイナンスしてファンドを卒業させる予定。			
< 当該企業の施策 > 債務の圧縮は、全金融負債の70%を実質的にカット。不採算店舗はみやげ物店・飲食店4店舗中の1店舗を事業譲渡で切り離し、1店舗のレイアウト変更などを実施。人件費は役員報酬を限界まで切り詰め、業務分担に見合った額に落した。営業面では、代表者の知名度を背景に営業活動を展開する施策を徹底した。			
経営支援後の企業の状況			
再生ファンドの管理下に入って三ヶ月ほどしか経過していない為、数値としての結果は未確定であるが、ファンドからの報告では、計画どおりの経営態勢を整え営業中で特段の問題は発生していない。			

複合サービス事業 < 2 >

支援先企業の概要	
・業種	複合サービス事業
・創業後年数（10年未満であれば。）	・企業規模（中小企業者に該当する場合には。）
☒	
経営支援前の企業の状況	
支援先はA事業とB事業の二種類の事業を営む企業である。事業多角化とB事業の県外出店に失敗し、過剰債務に陥った。加えて、B事業の競争力が低下したことによりキャッシュフローが低下。結果として金融機関の返済圧力が高まり資金繰り悪化、経営改善が必要となったもの。	
経営支援概要	
< 当行の施策 > 再生計画についてはメイン行が関与し、サブ行と地元メイン行である当行は、メイン行の金融機関調整のサポート及び再生開始後の経営管理体制の構築支援を行った。財務面の支援として、債権放棄・DESを伴う私的整理に同意し、かつ同意形成のための調整機能を担った。また、再生支援後のガバナンス機能として減資後の新株主選定・経営諮問機能の組織化といった支援を行った。人材も新経営陣として1名派遣し支援している。	
< 当該企業の施策 > 多角化を進めてきた事業から撤退し、事業のコア事業に経営資源を集中し、不採算の事業店舗を閉鎖することによる収益力改善を図ることとした。	
経営支援後の企業の状況	
H18.4より再建開始となったが、現在（18/8末現在）のところキャッシュフロー計画以上に実績があがっている。 また、不動産処分状況については、当初計画以上に売却が進んでいる。	